

南京町公式ガイドブック

熱烈歓迎

南京町[®]

「南京町」には、神戸の元気が詰まっています



熱烈歓迎

南京町[®]

普段着のまま飛び込める非日常

「南京町」には、神戸の元気が詰まっています

住宅地図を探しても、「南京町」という住所はみつきりません。
なぜなら、「南京町」はもともとあった地名ではなく、

神戸の人たちが、チャイナタウンに付けた呼び名だからです。

座談会

南京町と生きる。

1868年の開港とともにやってきた
外国人たちの「市場」として生まれた町が
賑やかな観光地になるまでの歩みを、
南京町育ちの有志とともにふり返ります。

「中国料理」バラエティの秘密

春節祭

南京町のランターン

中秋節

龍舞・獅子舞

南京町的建物探訪

中国の風習文化豆知識

神戸港が世界へと扉を開いたとき、
山側の北野の異人館通りから近く、
海側の居留地に隣接するこの場所に、
中国人たちが移り住み、

人々のくらしを支えるマーケットを創った
——そんな歴史が刻まれた名前なのです。

その後、戦争や震災をも乗り越えて、
二代目、三代目となったオーナーたちは、
地元の人たちと力を合わせて店を守り、
町での暮らしを楽しみながら、活気ある毎日を送っています。

お目当ての店があるから。

春節祭で獅子舞を見たかったから。

おいしい中華を食べるため！

きつかけなんて、なんでもかまいません。

肩ひじ張らず、普段着のまま遊びにいらしてください。

春夏秋冬いっだって、老若男女どなたがお越しになっても、
店主たちの情熱と「南京町」の活気が、熱烈歓迎いたします。
「この町に来てよかった」

「今度はあの人を連れてこよう！」

そんな思いを、お土産として持って帰っていただくために。

南京町商店街振興組合

理事長 曹英生（そう えいせい）





南京町と生きる。



中華料理店、食材店、雑貨店など、約100店舗以上が軒を連ねる「南京町」。
1868年の開港とともにやってきた外国人たちの「市場」として生まれた町が
賑やかな観光地になるまでの歩みを、南京町育ちの5人の有志とともにふり返ります。

座談会メンバー

曹 英生

1957年生 中国国籍あり。祖父の代より豚まんの店「老祥記」を営み、現在は雑貨販売なども手がける。組合理事長。

黄 棟和

1939年生 戦前より父親が焼き豚屋を営んでおり、一度は南京町を離れたが、現在は広東料理店「昌園」を営む。

安達 節子

1940年生 広東料理「民生」代表。婦人会「楊貴妃会」会長として、春節祭の中国史人遊行をサポート。

辻川 正宏

1946年生 鶏肉卸店「鳥利」の三代目。大阪・河内から南京町に移り住んだ祖父が明治33年に開業した店を守る。

沢口 涼祐

1975年生 台湾出身の祖父が鯉川筋で食堂を営み、父の代で南京町に開業した「劉家荘」を後継。20歳の時に帰化。



辻川 祖母から聞いた話によると、戦前の南京

町は、「下駄がかたつば(片方)から売っている」ほど、何でも市場だったそうです。市場ですから中華料理店だけではなく、豚肉屋、八百屋、雑貨屋などが立ち並んでいて、それはにぎやかだったらしいです。それが、戦争できれいさっぱり焼けてしまい、様変わりしたんですね。

黄 「南京町」なんて住所はないんですけど、市場として栄えていて知名度はあったから、「神戸南京町」と書けば、郵便物はちゃんと届いたと聞いています。

安達 当時は、料理屋よりも食材屋のほうが多くて、うちも豚肉屋でしたわ。そりゃ、すごいにぎわいだったって。

黄 その後に、南京町の「暗黒時代」がやってきた。曹 僕が小学校の低学年の頃かなあ。神戸港に外国船が泊まるもんやから、外人バーがたくさん出てきて、昼といわず夜といわず、船員や水兵がやってきてね。ケンカはしょっちゅうやったし、無銭飲食してトイレから逃げしてきた外国人が、うちの居間を横切っていたりしたもんですよ。

沢口 え〜？ 知らん家の居間をですか。コントみたい。

辻川 MPが巡回していて物々しいし、一般人は「なんだか怖い」と、立ち寄りにくい雰囲気

やった。

安達 道も狭くて汚くて…。生ものを扱う店が多かったの、ニオイもすごかったから、とくに若い女性は敬遠してた。道も舗装されていない石畳で、おしゃれしてヒールなんて履いたらコケちゃうし！ でも、外国の人とキャッチボールできたのは、今となってはいい思い出かしら。

曹 すでに住民の半分以上が日本人でしたが、お客さんは欧米人が多かったの、外人バーではドルでも支払いができたらしい。「店は缶に現金がふれるほど儲かって、オーナーが上から押さえつけとった」と、親父から聞きました。親父は着物姿で外人バーに出かけるような人だったんですよ。

沢口 うわあ、「ハイカラさん」ですね。

辻川 ところが、外国船が着かんようになって外国人客が減ると、店も町も活気を失ってしまいました。

安達 一時、中華料理店で営業しているのは、うち一軒だけという寂れた状態だったこともありま。でも、南側の栄町に、海運会社や金融機関がずらつと並ぶビジネス街があったから、なんとか続けることができました。

沢口 そうそう。民生さんでは、民間の有名企業が発行する食券が使えたって聞きましたよ。

安達 そう、頑張ってたんよ！

「春節祭」開催に向け、

ベテランも女性も若者も一致団結

辻川 その後、町の再開発が本格化してきたのは、「ポートピア81」の開催が決まったから。神戸といえば、海と山、そして、異国情緒が魅力だということ、チャイナ文化を受け継ぐ南京町の観光地化が進んだわけです。

曹 ちょうど、テレビドラマの舞台となった北野・異人館通りが全国的に注目され始めた頃やったかな。だから、北の異人館に対して、南の南京町を盛り上げようという機運が高まったんでしょう。

辻川 でも、区画整理に10年以上かかった。減歩率が25%——つまり、道を広げるために土地を4分の3にするというのだから、そりゃ、なかなか進まへんわ。今の南京町の東側半分の道路整備と街灯設置だけで、地元負担が5000万円。「この先、どうなるかわからへんところに、そんなにお金をかけてええんか？」と、組合の中でも意見がまとまらなくて…。

曹 ところが、82年に南楼門、83年にあづまや、85年に長安門…と、続々とハードが充実してきた、ニュースなんかで取り上げられる機会が増えると、「お金をかけてでも町を良くしたい」という



(右)昭和8年頃の南京町市場のにぎわい
(左)終戦直後の南京町の様子



被災者を助けるため、10店舗以上が炊き出しをおこなった。



4日間で27万人を集めた第1回春節祭。



現在もイベント業者を利用せず、手づくりで春節祭はおこなわれている。

方向で、みんなの気持ちが一いつになった。そして、「青年部」が設立されました。

黄 青年部も若かった！ 僕が40代で、曹さんはまだ20代後半。しかも、理事会メンバーの半分を青年部のメンバーに入れ替える話が出て、「何か自分たちでも楽しめることをやろう！」と盛り上がったのを覚えています。

曹 そんな大胆な事ができたのも、青年部が中心となって企画した第1回の「神戸南京町春節祭（87年）」が成功したおかげ。話題性を狙って日本一大きな龍で舞おうとしたのに、祭の2カ月前になっても龍が届かなくてハラハラしました。苦肉の策として、ほうきやモップをひもでつないで練習していたら、それがマスコミに「面白い」と注目されて、一躍有名になりました。

黄 本場の写真を見たり、長崎の「おくんち」を見学したりしただけで、見よう見まねの練習やったのにな。龍が届いたときも、簡単な説明文1枚を手がかりに必死で組み立ててね。パーツが大量に余ったけれど、出来上がった時は、うれしかったなあ。

辻川 予算の都合もあって、広告代理店を入れずに手づくりでやったのが、好感度を高めたのかな？ 商工会議所や大丸神戸店の方には、タイムテーブルのつくり方など、イベント運営のコツを教してもらいました。なにしろ初めての試みだったから、龍舞のように公道を使う出し物をするときは、警察に事前申請して許可を取らないといけないことすら知らなくて…。その反省を糧に、恒例行事として定着させることができました。

沢口 2009年の春節祭で初めてリーダーをさ

せてもらいましたけど、当たり前のようにやってきた作業は、皆さんの失敗の上に積み重ねられたノウハウだったんですね。

黄 手探りで始めた第1回の春節祭でしたが、結果的に4日間で27万人を集める観光イベントに化けました。普通ならお客さんが少なくなる時期に成果が上がったことで、「町の活性化のために、みんなで頑張ろう」という意識が一気に高まりました。

辻川 毎日のように組合のメンバーが15〜20名くらい夜中までミーティングしたもんです。

安達 最近では、婦人会「楊貴妃会」でも、中国史人旅行の準備をお手伝いするようになりました。京劇の経験者に教えてもらいながら、何度も講習会を開いて勉強したんです。南京町の女性は、「縁の下の力持ち」では終わらないんですよ。

沢口 おかげで、女性の参加希望者がどんどん集まるようになったんやから、ほんまスゴイと思いますわ。

落ち込む暇に動き出せ！
神戸の先頭にとって「復活宣言」

辻川 ところが、95年の春節祭の2週間前に、あの阪神・淡路大震災に見舞われた。台湾から雑技団を招く予定だったけれど、キャンセルせざるを得ず、悔しかったですね。

曹 民生さんのご主人と同じ避難所にいたら、「今年は無理やね」と話しつつ、緊急集会を招集すると、「来てくださる方がいるのなら、せめて温かい食べもんを出そう」という意見が大半を占めて、10店舗以上が店を出すことに。無料で料理



現在の南京町の風景。約100店舗以上が軒を連ねる。

を振舞い、義援金箱を置いたら40万円以上集まって、お客様の温かい気持ちに感激しました。

安達 あの時、水餃子をいっぱいつくったわあ。黄 大阪の中国領事館から1万個の寄付もあったしね。

沢口 うちの親父も炊き出しにいました。

辻川 持っていた鶏肉を、復旧したばかりの電気を使って、ありったけ焼いて出しました。「もう、あかんわ」なんて言っても、何も変わらへん。民間版の「神戸まつり」を、うちらだけでも何とかやろうって企画したよね。

曹 きっかけは、黄さんのところに流れてきた一枚のファックス。神戸まつり用の看板を作っている業者さんから、「神戸の中で一番元気のある南京町のみなさんで何とかしてください。このままでは寂しい」と。それを読んだ黄さんが、すぐに会議にかけて、「神戸五月まつり」をすることに決めたんです。

安達 元町商店街さんも協力してくれました。曹 音響機材を提供してくれる方、スタッフを出してくれる会社など、ほんま、ボランティア精神で出来た祭りでした。神戸中が自粛モードだとい

うのに「華僑」はやるのが違うね、なんて言う人もいたけれど、ムードが盛り上がってくるにつれて、「がんばろう神戸」が合言葉になっていった。前に希望がみえない町になれば、元気な若い人たちが離れてしまう。それをつなぎとめるために、少しは役に立たかもしれないと思うと、言葉にならん充実感がありました。

安達 報道の人もたくさん来てくれて、「がんばっている」と伝えてくれたのも、いいサポートになったと思います。

曹 横浜や長崎の中華街からも義援金をいただきました。「礼はいらない。関東大震災のときに大変お世話になったのだからお互いさまで」と言われて感動しました。

黄 僕は横浜も長崎も行ったことがあるけれど、それぞれに特徴があって、いい意味でライバルなんですよね。広くて、目玉になる大きな店もある横浜に比べると、神戸はちぢまりしていますが、それがかえって魅力になっていると違うかなあ。それに、どこ出身の人であろうと、分け隔てなくつきあえる気風があると感じます。

安達 規模が小さいからかもしれないけど、神戸は店同士の団結心も強くて、仲良しでいられるような気がします。お客さんと店の距離も近く、親しみやすいと思うわ。

沢口 たぶん、ほとんどの店にオーナーが出ているからと違いますか？ 店を切り盛りする店長さんが別について、オーナーさんの姿が見えない店は、ちょっと冷たい感じ。その点この町では、ちょっとのぞけば、曹さんが豚まん包んではるやないですか(笑)。黄さんもバリバリ現役ですし。

黄 現場で直接お客さんと接しているからこそ、どうやったらもつと店がよくなるか、町が盛り上がるかというアイデアが出てくるのかもしれないね。

曹 まあ、イベントにしる店の運営にしる、手づくり感バツゲン！ ということ。お金がない分、志とタイミングでカバーしながら、工夫してやってきて、それが当たり前やと思つてたけど、外から見ると珍しいみたいやね。

沢口 今年の春、新型インフルエンザ騒動でお客さんが激減したときですら、イベントの企画が出

てきましたからね。

曹 どんなにネガティブなことがあっても、ポジティブにとらえて盛り上がるパワーがあるのが、この町のすごいところ。たしかに新型インフルエンザでお客さんは減つたけど、神戸市が学校閉鎖を解除するという宣言を出すと聞いたとたん、「ええ、タイミングや。厄払いになるから、獅子舞だそー」と、あつという間に実行しましたから。

「本物志向」の南京町の美力

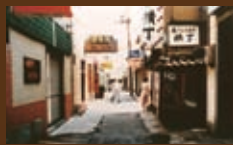
曹 ただ、震災後に「屋台」で炊き出しをしたイメージが強すぎたのか、店頭で買い物を済ませる、奥まで入つてくださらない方が増えてしまったのは残念やね。オーナーとの距離が近いことも、南京町の魅力のひとつなので、もっとコミュニケーションを楽しんでもらいたい。「中に入つたら高いんでしょう？」と言われることもありますが、予算を先に言ってもらえれば、それに合ったメニューを考えるなど、いくらでも融通します。それに、神戸は海も山も近くて食材が豊富だから、いわゆる地産地消で、意外と手ごろな価格で本格的な料理が食べられるんやけど…。

沢口 毎週のように通つてオーナーを口説けるようになれば、いつもと違うメニューが出てくるかもね。接待のときなんか、無理がきくと思うけどなあ。

曹 東京から仕事で来られた方が、「神戸っていいだろ。なんでも自然体なんだよね」と話しておられるのを聞いたことがあるんですよ。気が合い

南京町の歴史

- 1868年 神戸港開港とともに現在の南京町周辺に日本人と華僑が軒を連ね市場が誕生する
- 1888年 神戸又新日報にはじめて「南京町」の名称が掲載される
- 1941年 太平洋戦争勃発
- 1945年 神戸大空襲にて町のほとんどが焼失。さびしい戦後復興が始まる
- 1977年 南京町の観光地化のため「南京町商店街振興組合」を創立。新たなスタートを切る
- 1981年 「南京町復興環境整備事業実施計画」がまとまる。大規模な区画整理が計画され、現在につながる町づくりが始まる
- 1982年 「南楼門」完成
- 1983年 「あづまや」完成
- 1985年 「長安門」竣工
- 1987年 「第1回神戸南京町春節祭」が開催される。4日間で27万人の来街者数を記録する
- 1988年 「中国獅子像」一対を設置
- 1989年 南京町広場に「十二支像」を設置。猪のかわりに「パンダ像」が設置される
- 1990年 南京町とその周辺が景観形成地域に指定される
- 1993年 「臥龍殿」竣工
- 1995年 阪神淡路大震災発生。緊急会議を開催し、春節祭の中止を決定する
- 1996年 「第1回南京町ランタンフェア」を神戸ルミナリエに併せて開催。中国提灯が町中を彩り、あたたかな光で装飾される
- 1997年 「南京町」が当組合の商標として登録される
- 1998年 「春節祭」が神戸市地域無形民俗文化財に指定される
- 1998年 「第1回中秋節」開催。秋の風物詩とするべく、中秋の名月を鑑賞し豊作を祝うお祭りとして開催する
- 2005年 「西安門」竣工。阪神淡路大震災から10年を機に復興のシンボルとして建てる
- 2007年 「興隆春風祭」開催



入りすぎた感じではなく、肩の力を抜いてすごせる町だと自負しています。普段着のままに入れて、店の人と気軽に話ができ。その上、出てくるものは本物志向。そんな南京町を堪能してもらえたらうれしいなあ。

安達 メニューがわからなくても、「こんなのでありますか?」とか、「前はこんなのを食べたんやけど」とか、好みを言ってもらえれば、合わせられるよね。

曹 昼はランチを気軽に楽しんで、夜は紹興酒なんかも一緒に、ゆっくり味わっていただくのが、南京町の上級者としての楽しみ方だと思います。沢口 せっかく南京町まで来たのなら、どこの町にもある大衆の中華料理屋さんにはないようなものを試さないと、もったいない! とりあえずメニューを開いてみれば、八玉菜や酢豚のほかにも、うまい中華がいっぱいあるんやなあって、発見できるはず。

辻川 南京町の中だけでも、選ぶのに迷うくらいたくさんのお店があるけど、ちょっと足を伸ばせば、

北野、旧居留地、メリケンパークなどで、世界の料理が味わえます。異国情緒あふれる神戸ならではの楽しみ方ですよ。

黄 異人館、北野、旧居留地、そして南京町...とすべての町にそれぞれの歴史があるのも面白いですよ。たとえば、南京町広場にある十二支の石像に「パンダ」が紛れ込んでいることや、3つある門の素材やデザイン、額に書かれた文字がそれぞれ違うことなどに気づけば、南京町への興味がさらに深まるかもしれません。

沢口 旧正月を祝って踊ることも、中秋に家族円満を願って月餅を食べることも、南京町でやっているのは「流行の商売」ではなく、「文化の商売」なんやと思います。

曹 つまり、南京町には「本物」があるということ。だから、老若男女、どなたが何度来ても、そのときの目的に合わせて楽しめるんです。ご家族や恋人など、大切な方を連れてきていただいても、素敵な思い出と良い「気」を持って帰っていただければ、熱烈歓迎いたします。



座談会メンバー 左から沢口さん、辻川さん、安達さん、黄さん、曹さん。

写真提供 神戸華僑歴史博物館

食べる前に
知っておきたい!

小さな島国である日本にも、気候風土に合わせた郷土料理が存在していますが、広大な敷地と長い歴史をもつ中国には、さらに奥深い料理の系譜が存在しています。

専門家の間では八大料理系統に分けることもあるようですが、日本の中華料理ファンの中には、東西南北にある大都市の名前をとって、北京(北)・上海(東)・広東(南)・四川(西)に分類する「四大中国料理」のほうがお馴染みかもしれません。

店です。「食は広州にあり」と言われるほど、食材が豊富な地域。神戸と同じく海に近いので、シーフードの風味を生かす、あつさりした味付けが特徴です。また、香港から入るフルーツを使ってマンゴプリンをつくったり、インドネシアからつばめの巣を仕入れて珍味として楽しむなど、デザートからゲテモノまで、幅広く楽しむ広東の人たちは、中国グルメの代表と言えそうです。

が味わえます。また、水質が良く稲作が盛んなため、紹興酒の名産地でもあります。また、スープを包み込んだ粉もの饅頭「小籠包」も得意。豆腐や春雨を使った煮込み料理も多く、コクのある味付けが特徴です。

麻婆豆腐に代表される辛い料理は、湿気が多い盆地気候の四川地方で好まれました。豚肉や鶏肉のほか、うさぎや羊も好んで使い、煮込みか油をたっぷり使った調理が主流です。ソースの漬物や唐辛子など保存性の高い食材を付け合せやタレに使います。

「中国料理」バラエティの秘密

日本の約26倍の広さを誇る中国。気候風土が異なる地域ごとに、料理の味付けや食材にも特徴がみられます。四大料理を例に学びましょう。

げ物や炒め物などが好まれます。ネギやニンニク、ショウガなどの薬味を醬(ジャン)や油に加えて味に変化をつけるのも特徴のひとつ。水餃子やとろみのあるスープも北京料理の代表格です。

このような地域ごとの食文化の違いは、春節の料理にも表れています。八宝菜のルーツと言われる8つの食材(タケノコ、落花生、春雨、金針菜、髪菜、白菜、白果、干し牡蠣)を使った「斉」を並べる広東料理、コインや鉛を入れた水餃子「発財」で二年の金運を占う北京料理、細く長い長寿を折って温かい麺料理を食べる上海料理、鍋を囲んで家族円満を願う四川料理——そんな、中国料理に込められた意味を知れば、南京町グルメが何倍も楽しくなりますよ。



北京料理

辣椒鶏
(ラーチャウチ)
薬味を入れた油と醤油で鶏肉と野菜をしっかりと味付け。甘さ控えめ。



上海料理

蟹粉豆腐
(シエーフントウフ)
カニ味噌&カニの卵入りの豆腐を煮込み、カニのうま味を丸ごと堪能。



四川料理

雲白肉
(インバイロウ)

3時間煮込んだ豚肉に、薬味と唐辛子のソースを添えることでさらに美味。



広東料理

干煎蝦碌
(カンチエンシャルウ)
塩と少量の醤油だけという味付けが、海老のうまみを引き立てる。

取材協力・料理提供 広東料理「昌園」オーナー 黄 棟和
神戸南京町中華料理店協会会長や兵庫県中華料理業生活衛生同業組合理事長を歴任し、現役シェフとして厨房に立っている。



しゅんせつさい

春節祭

旧暦で節句を祝う中国では、旧正月にあたる「春節」が、一年中で最高に盛り上がるおめでたい日。南京町では、1987年から、春節のお祝いをアレンジした「春節祭」を開催するようになりました。1997年には神戸市の地域無形民俗文化財に指定され、地元の方々だけでなく、観光のお客さまにも愛される祭として根づいています。

実家で家族そろって 祝う旧正月

日本では、元日——すなわち新暦の1月1日を一年の始まりとして祝い、初詣に出かけたり、子どもたちにお年玉を渡したりして祝います。近年では、家でのんびり過ごすよりも、初詣帰りに買い物などに繰り出す傾向が高まってきたため、正月早々から営業するデパートや商店が増えました。

ところが、中国の旧正月(毎年1〜2月中)は、少し様子が違います。春

節に入ると、学校や会社が休みになることはもちろん、レストランや市場などもほとんどが営業を止めてしまったり返っています。都心で暮らしている人は地方の実家に帰省し、久しぶりに家族団らんのひとときを楽しみます。

広大な国土をもつ中国のこと、正月を祝う作法や習慣は、地域ごとに少しずつ異なるようですが、家の玄関を提灯(ランタン)や五色の布で飾ったり、「春聯(チュンリエン)」と呼ばれるおめでたい対句を書いた赤い紙や、福の



春節祭では龍舞や、獅子舞以外にも様々な出し物や参加型イベントも開催しています。



春節祭の主役である龍舞と獅子舞。舞うことで厄をはらい、新しい年を祝います。

字を逆に書いて神様の到来を願う「倒福(タオフォー)」を貼ったりする様子は共通です。「紅包(ホンパオ)・压岁钱(ヤースイチェン)」という小さな赤い袋に入れたお金を子どもたちにプレゼントするなど、日本の正月と似たような風景もみられます。

爆竹が鳴り響き、 龍や獅子が舞い踊る

実は、お祝いが始まるのはお正月当日からではありません。前日の大晦日の夜から爆竹を鳴らし、花火を打ち上げて賑やかに盛り上がるのが、春節のならわし。また、地域ごとに異なりますが、たとえば広東エリアでは、大根餅や春雨の煮物、ドライフルーツといったお正月料理を食べながら、一睡もせずに夜を明かすといえます。

もともとは、灯りや音で脅しをかけ、おそろしい怪物を追い払うために始められた習慣だという説が有力ですが、風水などお金にまつわる縁起担ぎが大好きなお国柄ゆえか、いつしか爆竹や花火の数や音の大きさは、その家庭の経済的な豊かさを示す「ステータス」とみなされるようになりました。だからこそ、競い合うように大きな音を鳴らし合い、踏み付けられた爆竹の残骸の多さすら、自慢のタネになるのです。

そんな春節の華やかさや賑わいを受け継いだ「春節祭」でも、「獅子舞」や「龍舞」のほか、さまざまな出し物を企画し、

何カ月も前から準備を始めます。

1987年の第1回春節祭の目玉として企画されたのが「龍舞(1ページ参照)」です。指導者や教科書が存在するわけではなかったため、長崎の「おくんち」に出てくる「蛇踊り(龍踊りともいう)」を実際に見学したり、写真を見たりして、研究するしかありませんでした。しかも、中国から部品が届くのが遅れ、ほうきやモップをひもでつなぎ、龍にみたてて猛練習。そんな苦労が実ったのか、初めての春節祭は4日間で予想をはるかに超える27万人もの来場者を集め、成功裏に終わったのです。

震災を乗り越え、 さらにパワーアップ!

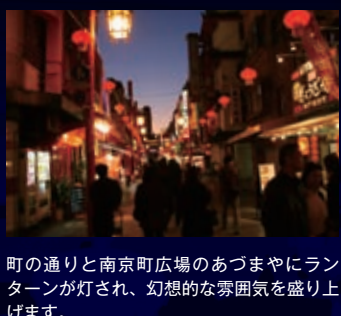
その後、昭和天皇が崩御された1989年と阪神淡路大震災に見舞われた1995年の2回は中止を余儀なくされましたが、震災からの「復活宣言」と銘打ち、1995年の3月には獅子舞を披露。春節祭のスピリッツが市民の沈んだ心に勇気と元気を与えました。

2010年で22回目を数える現在では、商店街振興組合の婦人会「楊貴妃会」の有志が運営をサポートする「中国史人游行」や、中国舞踊、中国音楽、太極拳、花架拳などバラエティ豊かなイベントが目白押し! 神戸の冬の風物詩として定着しています。

南京町のランターン

色・形のバリエーションが豊富な中国ランターンは、装飾品やインテリアとして大人気。

南京町では、毎年12月上旬から南京町広場とメインストリートを中心に、約400個の中国提灯を並べ、「フンターニア」を開催しています。初日には爆竹の合図で点灯後、獅子舞が登場。ルミナリエとは一味違う、幻想的な光の演出です。



町の通りと南京町広場のあつまやにランターンが灯され、幻想的な雰囲気を盛り上げます。



ちゅうしゅうせつ

中秋節

収穫に感謝し家庭円満を祈る

農耕民族であった古代中国の人たちにとって、秋は収穫の時期。そのちょうど真ん中にあたる旧暦の8月15日は「中秋」と呼ばれ、春節に次ぐ伝統の祝日とされています。秋雨によって空気の埃が払われ、澄んだ夜空にぼつかりと浮かぶ美しい月を鑑賞する習慣は、唐の時代から続いているらしく、詩文などにも残されています。

地の神様に収穫を感謝するとともに、十五夜のまるい月に託して、円満、幸福、平和を願い、一家団欒を楽しむ「中秋節」。家庭でも、欠けない丸い食器で食事をし、秋の実りを供えます。そして、日本の「十五夜」の定番菓子である団子の代わりに登場するのが「月餅」です。一人で1個ずつ食べるのではなく、家族や親友と切り分けて食べることで、円満な関係が続くよう願うのがならわし。お世話になった方にプレゼントとして、親愛や尊敬の情を示すこともある、格式高いお菓子なのです。

中秋節に食べられる、月餅の由来

月餅の由来には諸説あります。たとえば、中秋の頃には昼と夜の長さは同じになるた

旧暦の8月15日に合わせて、一年で一番美しい満月を一家団欒の象徴として祝う「中秋節」。日本の十五夜のルーツと言われています。



め、月を太陽と同等に敬うべき対象と考えた人々が、その形を模した菓子をつくったという天文学的な説のほか、元を倒した明の皇帝・朱元璋が、月餅の中に密書を隠して伝令の者に持たせ、そのおかげで勝利を得たというユニークな逸話も伝わっています。今でこそ、機械で大量生産されるようになりましたが、昔は、模様を彫り込んだ木型に生地を入れ、餡を包み込むように成型してから、表面が硬く茶色に色づくまで焼く「広州式」で手づくりする店が多かったようです。

形は真ん丸と決まっているわけではなく、店や家庭によって、楕円形や四角形のものもありますが、角が取れていることが必須条件。日本では、小豆餡を入れた「豆沙月餅(トウシャユエピン)」がおなじみですが、中国では、ハスの実の餡を入れた「蓮蓉月餅(リエンロンユエピン)」や、干しあわびやハムなどを使った甘くない月餅など、味のバリエーションも豊富。お祝い用に、おやつに、そして軽食として、いつでも誰にでも愛される食べ物。月餅なのです。

龍や獅子の豊かな表情にご注目

南京町の中秋節でも、第12回目となる



2009年からオリジナルの「南京町月餅」を販売しています。また、獅子舞や龍舞、太極拳、中国音楽、中国舞踊などは、いまや恒例のイベントとなりました。さらに2001年からは、夜光龍の「焰龍(イェンロン)」も加わり、蛍光塗料とブラックライトによる妖しい光で、訪れるお客様を魅了しています。

日本にも地域ごとに神輿やだんじりなどの祭礼団が存在するように、中国の青年たちも村ごとに「龍獅団」を結成し、祭事とともに獅子舞や龍舞を披露します。神戸南京町龍獅団のメンバーも、学校や仕事が終わった夕方から広場に集まり、週1〜3回のペースで練習に励んでいます。間近で観れば、体操競技にも劣らないハードなアクションと、チーム全員の息の合った演技、オス龍の勇壮な踊りとメス龍の艶やかな踊りのコントラスト、音楽の強弱を捉えて表情を変える獅子の豊かな表現力に驚かされるはず！

そのほか、巨大ガラポンで運試しができる「福球」や「子供餅つき大会」、「チャイナドレス写真館」、「西遊記の主人公たちと会える撮影会」など、毎年趣向を凝らした出し物を企画。美しい月が顔を出すまで、たっぷり楽しめる秋のイベントです。

龍舞

りゅうまい

中国では「神様の使者」「皇帝の紋章」と考えられていた龍は、庶民にとつて、決して身近な存在ではありませんでした。

現在では中国本土はもとより、世界のチャイナタウンで龍が舞い、春節など季節の節目を祝います。南京町の龍にはオス龍(ロンロン)とメス龍(メイロン)が設定されています。これは南京町だけのオリジナルなのです。

中国古来の風水思想にのっとり、幸せや

福を引き寄せる玉に導かれて舞うロンロン。勇壮に舞い進み、観ている皆さんにも、幸せなパワーを運んでくれることでしょう。

頭部だけで約20キロあるロンロンを操り、軽やかに舞うのは見た目以上の重労働。しかし、春節祭や中秋節で龍舞を見て一目惚れをした人たちが、舞い手を志願し、仲間に加わる例も増えています。



獅子舞

ししまい

中国の獅子舞には、日本の獅子舞の原型となっている「北方獅子」と、南京町で舞っている「南方獅子」があります。招福や厄除けの象徴として、祭事には欠かせない存在です。「南方獅子」には、動きが滑らかな山式と世界大会が開かれている鶴山式という2つのスタイルがあります。南京町がお手本にしているのは鶴山式になります。外見は面長で、愛嬌のある顔立ちが特徴のひ

とつです。

獅子には様々なサイズがあり、南京町では3号〜4号を使っています。頭役と脚役の2人1組でアクロバティックな動きを見せますが、頭役が軽やかにジャンプを決めるとき、脚役は前が見えない状態で頭役を支えるなど、息の合った演技は圧巻。ドラや太鼓に合わせたリズムミカルな動きは、日頃の練習の賜物です。





南京町の建物探訪

南京町では楼門やあづまやなど中国式建築物を整備してきました。これらは町を印象づけるとともに、異国情緒を感じさせてくれることでしょう。南京町で中国という異国の文化を楽しみましょう。



② 西安門(西楼門)



① 長安門(東楼門)



③ 海安門(南楼門)



④ あづまや(南京町広場)



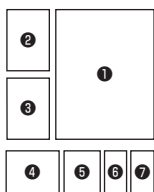
⑤ 臥龍殿(がりょうでん)



⑥ パンダ像(十二支像)



⑦ 中国獅子像



①「長安門(東楼門)」は南京町の東の入口にあり、中国河北省石家荘特産の大理石・漢白玉を使用した楼門。無数の龍と雲の彫刻がある柱は荘厳。1985年竣工。②「西安門(西楼門)」は震災後10年の節目となる2005年に復興のシンボルとして建て替えられた。復興を意味する「光復」の額がかけられている。③「海安門(南楼門)」は初めての楼門として1982年竣工。記念撮影スポットとしても人気。④1983年に完成した「あづまや」は南京町広場にあり異国情緒を演出。南京町のシンボリックな存在。⑤臥龍殿(がりょうでん)は市民トイレとして設置。「臥龍殿」の文字は作家の陳舜臣氏の揮毫で、三国志で知られる諸葛孔明の別名から命名された。⑥南京町広場に設置された「十二支像」は13体ある。十二支像を中国に発注したところ、「亥(イノシシ)」がうまく伝わらず、代わりにパンダ像が到着した。その後にイノシシ像が加わったことで、「13体の十二支像」となった。⑦「中国獅子像」は南京町の北の入口を見守る大理石製の中国獅子像。口の中の玉をなでると幸運が訪れるといわれる。



中国の風習文化豆知識

日本でも日常的に食される餃子。お菓子として馴染みのある月餅の、中国での最近の様子や南京町でもちらほら見かけるグッズなどを通して、ちょっとした中国の文化や風習をお伝えします。

4文字入魂！招福ペンタント

風水グッズを筆頭に、開運や招福に熱心な中国人の人たちの間には、縁起のいい四字熟語を書いた赤い札を、インテリアに取り入れる習慣があります。たとえば、「金玉满堂」は、金＝財産と玉＝宝物で、堂＝部屋がいっぱいになりますように、という意味。ほかにも、成績アップには「学業猛進」、出世を目指すには「花開富貴」、健康増進や長寿には「老如松柏」など、皆さんの願い事にぴったりの4文字が、きっとみつかりますよ！



逆さの「福」は、どんな意味？

中国料理店などで、「福」という文字を逆さに書いた赤色の紙が飾られているのを見たことがありませんか？これは、「倒(れる)」(dào)と「到(る)」(dào)という文字の発音が似ていることから、「福を倒せば(逆さにすれば)、福が到る」とつくられた招運グッズなのです。春節の際には家々に貼られて「福気・福運」が到りますようにと願うそうです。



餃子を噛んで「ガチッ」と来たら…

美味しくて価格もリーズナブルな餃子は、日常的に食べられる料理として日本にも浸透しています。ところが中国の北京エリアでは、「元宝」という昔のお金の形に似ていることから縁起物と考えられ、春節を祝う特別な料理として受け継がれているのです。大晦日に家族揃って水餃子をつくるとき、何個かにひとつだけ、コインや飴玉を仕込んでおき…最初に“当たり”を食べた人は、新年に金運に恵まれる、と占うんだとか。

ファストフードから高級ホテルまで最新・月餅事情

中秋節を祝うお菓子「月餅」。中国では地方ごとにたくさん種類の月餅があります。もっともポピュラーなのは、蓮の実の餡と卵の黄身が入った香港式の「蛋黄蓮蓉月餅」でしょう。同じ香港式の中には、日本人好みの小豆餡をベースにナッツ類を加えたタイプもあります。現在でも中秋節に月餅を贈る風習は続いているようですが、近年では外資系のファストフード店やアイスクリームショップのチェーン店から中秋節限定の月餅が登場し、今までになかった新しい月餅の世界が誕生しているようです。月餅を家族や知人と切り分けて、一緒に幸せを願うという温かいメッセージが、世界中に伝わっていくといいですね。



【中国語講座】

気軽に
はじめよう



中国語のポイントには発音です。まずはこの四つを覚えて、南京町で使ってみてはいかがでしょう。中国気分を満喫しましょう！

ニイハオ【你好】

意味 こんにちは。お元気ですか。

まずはあいさつ。ちなみにおはようはザオシャンハオ【早上好】。おやすみなさいはワンアン【晚安】。

ハオツー【好吃】

意味 おいしい。

ご飯を食べておいしかったら、ハオツー【好吃】です。南京町にはハオツーがいっぱいです。

ハオカン【好看】

意味 かっこいい。

龍舞・獅子舞でポーズが決まったら言うてみましょう！チャイナドレスが素敵な人へはピャオリヤン【漂亮】できれいですと伝えましょう。

マーマーフーフー【馬馬虎虎】

意味 まあまあ。ぼちぼち。

関西の商売人がよく言うフレーズ、「ぼちぼちでんなあ」の中国版。なんとなく、雰囲気出ますよね。国は違えど発音のニアンスが似ているのが不思議です。

南京町の情報発信

南京町のホームページではお店の紹介やお得な情報を紹介しています。南京町の楽しみ方や、イベント告知などご用意。さらに南京町広場をリアルタイムでみられる南京町放送局や、龍舞や獅子舞についての紹介ページもあり盛りだくさん! ぜひ、ご覧ください。

ホームページ

<http://www.nankinmachi.or.jp/>

携帯ページ

<http://www.nankinmachi.or.jp/mobile/>



携帯でアクセス



神戸華僑関連施設のご案内



神戸華僑歴史博物館

神戸市中央区海岸通3丁目1-1 KCCビル2階
TEL 078-331-3855 FAX 078-331-9530
<http://www16.ocn.ne.jp/~ochm1979/index1.html>



関帝廟

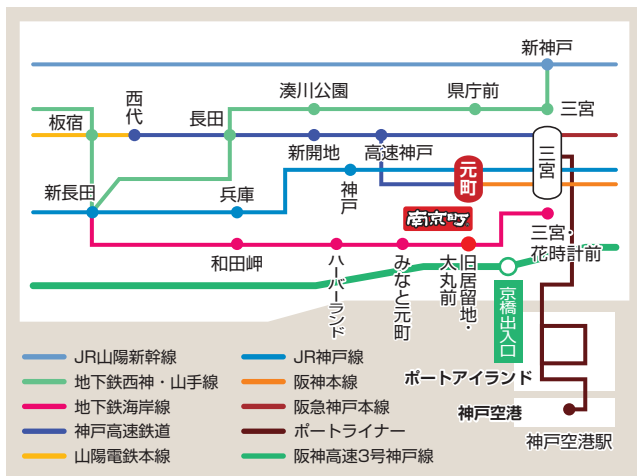
神戸市中央区中山手通7丁目3-2
TEL 078-341-2872 (関帝廟事務所)



孫文記念館

神戸市垂水区東舞子町 2051 番地
TEL 078-783-7172 FAX 078-785-3440
<http://sonbun.or.jp/>

交通のご案内



【電車で来られる方】

JR神戸線または阪神電車「元町駅」下車。南へ徒歩約5分。
阪急電車「三宮駅」下車。西南へ徒歩約10分。
市営地下鉄海岸線「旧居留地・大丸前駅」下車。西へ徒歩約3分。
「みなと元町駅」下車。東へ徒歩約5分。

【お車で来られる方】

阪神高速3号神戸線「京橋出口」から国道2号線を経由し、西へ約5分。

【新幹線で来られる方】

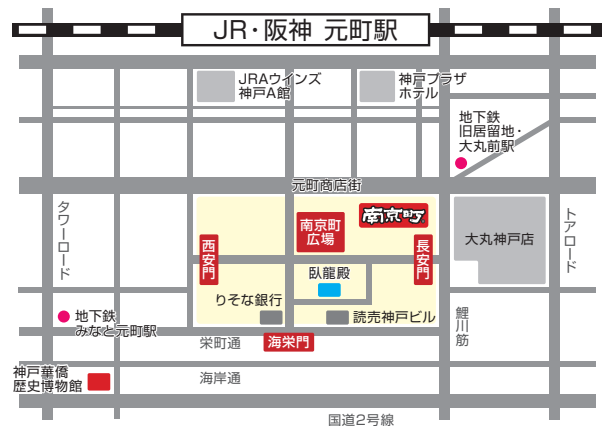
「新神戸駅」下車。市営地下鉄西神・山手線で「新神戸駅」より「三宮駅」へ。
「三宮駅」でJRまたは阪神本線へ乗り換え「元町駅」下車。南へ徒歩約5分。

【神戸空港から来られる方】

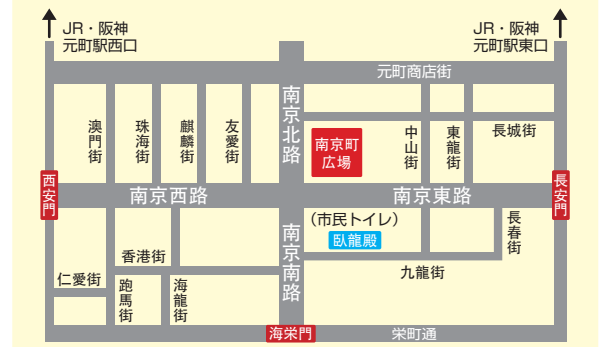
ポートライナー「神戸空港駅」より「三宮駅」へ約18分。
「三宮駅」でJRまたは阪神本線へ乗り換え「元町駅」下車。南へ徒歩約5分。

JR・阪神元町駅からのご案内

南京町周辺地図



南京町案内地図



発行・お問い合わせ

南京町商店街振興組合事務局 (平日11:00~18:00)

〒650-0023 神戸市中央区栄町通1-3-18 TEL: 078-332-2896 / FAX: 078-332-2897

監修 南京町商店街振興組合 / デザイン・制作 株式会社トリス